


## 『浸水ナビ』による浸水深の確認の仕方

国土交通省が公開するサイト『浸水ナビ』では、洪水ハザードマップに示す洪水浸水想定区域の基となる、対象となる河川の想定破堤点（仮にはん濫するとした点）ごとの浸水深を確認することができます。


ここでは、確認したい地点で見込まれている最も深い浸水深を確認する方法（操作の仕方）を解説します。このほかにもいろいろな情報を確認できる多機能なサイトです。お時間があるときに是非ご確認いただき、洪水からの避難に役立ててください。

STEP  1 : まずは、「浸水ナビ」のサイトを開きましょう。

右のトップ画面を下へスクロールすると、「シミュレーションの条件」や「データ利用について」などの注意事項も記載されていますので、ご確認の上ご利用ください。



「地点別浸水シミュレーション検索システムを見る」をクリック


STEP  2 : 「地点から」をクリックします。

右の画面が表示されますので、左上の方にある「地点から」をクリックします。

「地点から」をクリック

ここで、対象とする降雨の規模も選択できます。  
富山市洪水ハザードマップの「最大想定」の浸水深をご確認いただく際は、「想定最大規模」を。  
「基本想定」の浸水深をご確認いただく際は、「計画規模」を選んでください。



STEP  3: 日本地図を拡大して、確認したい場所を表示します。

以下のいずれかにより、富山市内を表示します。

- ・マウスのスクロールホイールで拡大
- ・+ボタンで拡大
- ・富山市のあたりをダブルクリック

+

- ・ドラッグ（左クリックを押しながら拡大したいところを移動させて中央に表示）



拡大していくと、浸水が想定される場所が青で着色された右図のような画面が表示されます。

ここから、さらに確認したい場所がわかる縮尺まで拡大していきます。



この解説では、「富山市役所」の浸水深を確認するものとして、市役所の周辺を拡大してみました。



STEP **4** : 確認したい場所を選択します。

STEP3 下段の図

以下のいずれかにより、確認したい場所を選択します。

- ・「確認したいところ」をダブルクリック
- ・①「地図上で指定」をクリックしてから
- ②「確認したいところ」をクリック

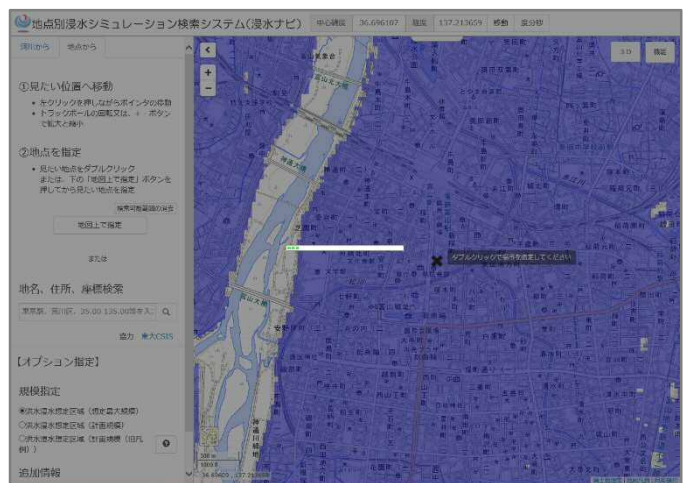


① 「地図上で指定」をクリック

② 「確認したいところ」をクリック



すると、右図のような画面が1分程度続きます。しばらくお待ちください。



お待ちいただくと、右図のような画面が表示されます。

- × : 確認したい場所
- : 確認したい場所に浸水影響が及ぶ想定破堤点※

※一定規模の降雨により堤防が決壊（破堤）した場合にはん濫するおそれがあるとして、浸水シミュレーション上で設定された点（実際に想定破堤点で破堤するとは限りません）



図で示される●の一覧表

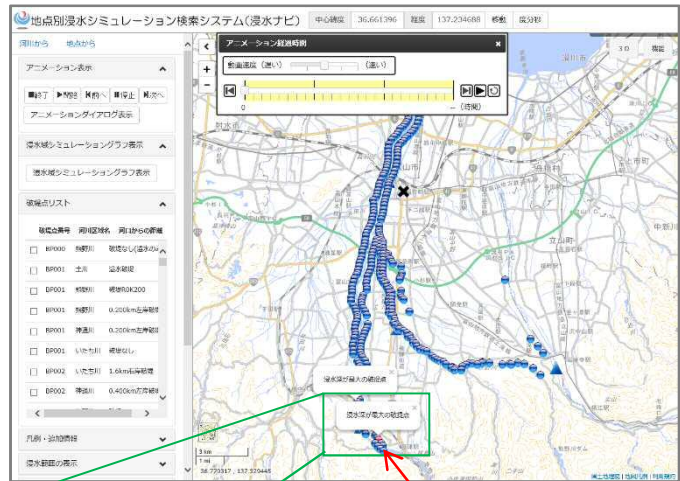


STEP 5: 最大の浸水深が見込まれている想定破堤点を選択します。

STE4 下段の図を広域表示した図

先ほどの画面上にカーソルを置いて、はじめに行った動作の反対の作業をして右図のように画面に●がすべて入るように広域表示します。

すると、「浸水深が最大の破堤点」というメッセージがついた●が表示されますので、その●をクリックします。  
(今回は2箇所表示されました)



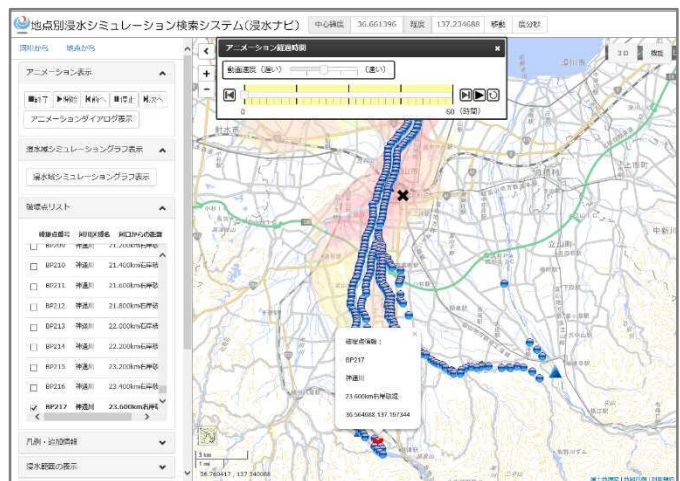
●をクリック



右図のように表示されます。

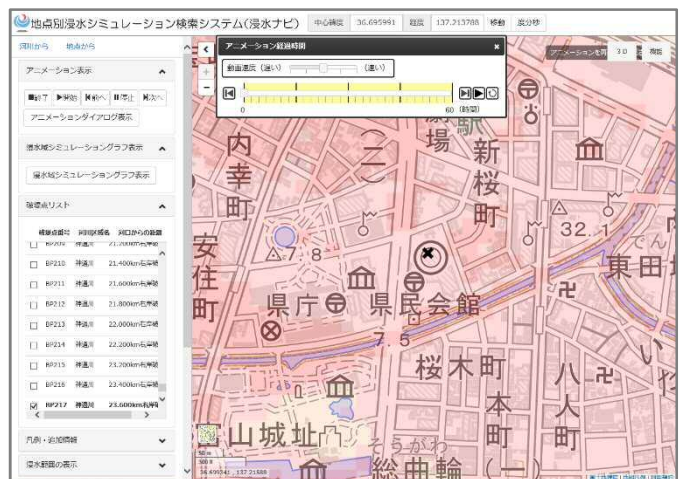
表示された着色の範囲は、●の位置で破堤した場合に浸水影響があると想定されるようになります。


また、確認したい場所で最大の浸水深になる浸水シミュレーション結果です。



次に、今一度、確認したい場所を拡大します。

右図は、最大限拡大した状態です。

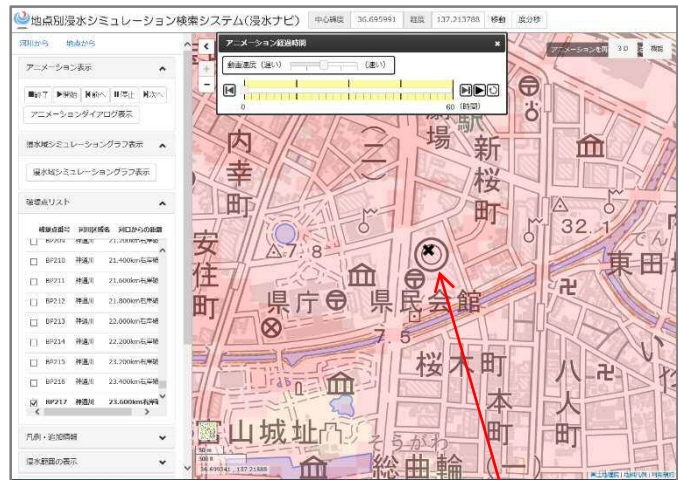


STEP  6: 確認したい場所の最大の浸水深を表示します。

STE5 下段の図

最終作業になります。

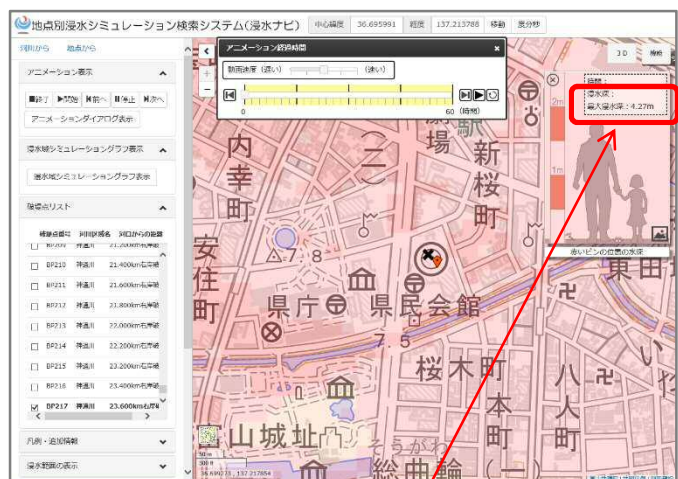
右図の確認したい場所をクリックしてください。ただし、×マークの位置はクリックできませんので、最寄りの場所を選んでください。



確認したい場所をクリック



すると、右上に確認したい場所の最大の浸水深が表示されます。



最大浸水深

(注意)

- ・ここで得られた最大浸水深は、×マークの位置や最後に選ぶ場所で若干の違いが出る場合がありますので、その点ご注意ください。
- ・洪水ハザードマップに示す浸水想定と異なるメッシュサイズで提供される情報となっていますので、場所によってはマップと浸水区分が異なるところもありますのでご注意ください。